

マンスリー・サンズ・トーク (66)

2014.5.1

木村 謙

早稲田大学の歴史

昨年は、福沢諭吉が始めた慶応大学のキャンパスを訪れて、1月のサンズ・トークに披露しました。その時から、次は早稲田と思いつつ月日がたち、今回、ようやく早大をテーマにトークを試みました。

大隈重信が創始した早稲田大学

大隈重信は、佐賀藩士として、藩校弘道館に学びのち藩に蘭学を導入し、英語を学び、明治維新により政府に参画する。参議大蔵卿として大蔵省の基盤を造る功績を挙げたが、明治14年の政変により下野し、豊島郡早稲田村に東京専門学校を造り、学問の独立、活用、模範国民の造就を旗印にした。そして、これが明治35年に早稲田大学になったのだ。



大隈講堂は昭和2年に完成（重要文化財）

大隈は、外務大臣を務めていた明治22年、暴漢の爆弾襲撃を受けて右脚を失い、以後は義足となる。のち、明治31年、薩長閥以外から始めての総理大臣となったが、これは憲政史上初の政党内閣であった。時代は下って大正3年、再び総理となり2年後に辞職したが、その時78才6ヶ月で、総理経験者としては今に至るまで最高齢だったのだ。

建学の精神

早稲田の建学の精神は、東西文明の調和と融合により、日本のみならずアジアの発展に寄与しようというアジア重視の方針で今日まできており、明治32

年にはすでに清国から留学生を受け入れている。

平成21年、早大の外国人留学生は全国の大学中トップの3,100人強であった。平成19年の統計だが、中国、韓国、台湾からの留学生は全留学生中の70%に上っている。

元中国国家主席胡錦濤氏の来校、講演

平成20年5月、来日した胡錦濤氏が、大隈講堂で、日中青年へ未来志向の友好を語る講演をされた。当時総理だった早大出身の福田康夫氏や卓球の福原愛さん、中国の卓球オリンピック金メダリストなどと和やかに交流している群像が目にとまった。皆さん、いい笑顔をしている。



大学のウェブから借用しました

中国、韓国との険悪な国交関係

それから僅か6年、安倍内閣になってから中国、韓国ともに領土問題、靖国問題がこじれて険悪な関係になってしまった。日中韓の外交関係には、アメリカのオバマ大統領も内心、もっと旨くやれぬものかと懸念を抱かれています。

日本人一般の感情としては、中国、韓国の人々に格別の悪感情を持っているわけではなく、近い隣国との旅や往来、食文化などに親近感もあり、平和、友好には賛成ではなかろうか。私も、上の写真をみると、あの頃は良かったのと思うのでした。

アジア重視の早大の歴史の積み重ねは、こういう情勢のなかでも光るものがあるはずだ。大隈重信の明治初期からの活躍の中で、西欧文明とアジア極東文明との融合は絶えず意識していたのであろう。

今回、早大についてのレポートを期したが、偉大な大隈の事跡、それと現今の日中韓情勢に気をとられ、本題から外れた感じになってしまった。